

樹 姉 ば よ り

No.158
2017.12



桜山公園（藤岡）の冬桜

慈 悲 喜 捨

師走は十二月を指す言葉ですが、年末年始の準備で忙（せわ）しくなる十一月下旬から十二月中旬頃を師走と捉えている人も多いようです。

師走の語源はいろいろありますが、「師（僧）が走る」という説があります。僧とお坊さんのことですが、日本では昔から年末になるとお坊さんに自宅でお経を唱えてもらう風習がありました。年末が近付くと、あちこちから依頼が来るので、お坊さんは忙しくなります。その様子を見て「師が馳（は）せる」から師走になったという事です。次に、年が果てる月なので「年果つ（としはつ）」説があります。十二月は一年が終わる月なので、四季が終わる、年が終わるといふ意味から、年果つ（としはつ）が変化して、としはす↓しはす↓しわす、となったと言われています。さらに、当て字説もあります。日本書紀や万葉集などには、十二月を「しわす」と呼んでいたという記述があり、これが、師走にあてられたということです。

「年が近づく」ではなく、「年の瀬が近づく」と言います。それは、年の瀬の「瀬」は、川の浅い所、流れの速い所という意味があつて、船が通るときに、急流や激流が行く手をはばむような場所を指しています。この様子を人間に置き換えて、師走に支払いがたまつて困っていたり、支払いをすると食事ができなくなるなどになぞらえていると言われています。つまり、一年の暮れが近付いているというより、もつと慌（あわただ）しく、おしつまつている様子を現す言葉が「年の瀬」です。

時期だけでなく、十二月の忙（せわ）しない雰囲気を含めた言葉であることがわかると、言葉とつながって情景まで想像することができるとも素晴らしいと思います。そして、そのような日本語を使う私たちも、奥の深い人間になるよう努めていかなければならないとつくづく思います。

今年も、まもなく一年が終わります。年の瀬にあたり、心身を整え、来年も良い年となるようにしましょう。除夜の鐘を聞きながら、新たな気持ちで新年を迎えたいものです。

樹徳の男子教育

明照学園理事長
野口 秀樹



光陰矢の如し、今年も残すところあとひと月になりました。新しい年を迎える為の準備期間、丁寧に過ごしてまいります。

今年はい県内高校の周年行事が目白押しで、十一月二日には、隣にあります県立桐生高校の、創立百周年のお祝いがありました。樹徳とほぼ同年代に、隣の学校も始まったのであります。その慶事に合わせて百周年記念誌が発行されました。本学園の二代理事長校長の野口健策先生が、同窓会報二号に寄稿した文章が紹介されていて、それを読んだ方から連絡を頂きました。

先生は桐生高校の昭和十五年の卒業生です。入

学後、桜の木の下で撮ったクラス写真を見て「あまりにも戦没死された友の多いことが今更ながら悔やまれます。あの若さであの元気な仲間が、と考えると、私だけが生きながらえて、当時の思い出にふけていていることが、申し訳なく、また不思議でなりません。従って同窓会等の話題も、つい亡き友のことについて触れることが多くなり、そのつど故人の思い出にふけり、冥福を祈っています。

当時の私達は、純粋に命を国家に捧げる事こそ真の生き甲斐、と考えていたのです。これは戦後の人々には、理解できないでしょうし、また、方向をあらやまった人生観であったかも知れませんが、いづれにせよ命がけで向かっていける目標があったことは幸せでした。

そして特に愛国心が強かった友が、国を愛し民族の繁栄を願って、生き甲斐と喜びの

うちに遷化されたものと信じております。こうした人生観がどこから生まれたのか、いろいろな理由や条件があったでしょうが、母校の教育のうちからも生まれたことも、また確かな事と思えます。

この文章を読んで、当時の若者達の不思議な感情と混乱が伝わってまいりました。一緒に生きた友が、病でなく、戦争で死んでいく。相当辛いことであったでしょう。

という先生も、大学二年の時に学徒出陣、海軍予備学生として武山海兵団に入団しました。そして昭和十九年に久里浜海軍通信学校を卒業し、海軍少尉任官。天草航空隊（旧本渡市）に配属されたのです。そしてここで先ほどの友人達の戦死ではありませんが、同様の経験をするのであります。

ここは博多海軍航空隊の天草分遣隊として、水上機の操縦訓練が目的でありました。しかし、日本の敗戦が濃厚となった昭和二十年三月に独立

し、水上機で爆弾を背負い敵艦に体当たりする、神風特別攻撃隊の発進基地となつてしまつたのです。

陽気のよいある日、隊の仲間達と外に出てみると、突然米軍機が空に出現し近づいてくるので「伏せろ」と大声を出す。通り過ぎたので立ち上がると、いつまで経っても皆が起き上がってこなかった。この時、先生一人が助かってしまったのです。そればかりか終戦までに、特攻隊の出動二回、計十六名の若者が敵艦に突入玉砕しました。司令部で出撃の指示を出していたのは、上官である先生達ではないかと思いません。

人生の楽しさ豊かさをこれから知るであろう少年達を飛び立たせた経験、非常なものだつたと思います。

終戦後、この体験から、大学に戻り仲間の霊を供養するため、僧侶になることを決意するのです。

また、次の時代をになつていく若者の教育の重要性に目覚め、人生をかけて青少年教育に当たることを決意しました。明治の終わりから大正の始めに、父親が目指した樹徳女子教育の上に戦争の反省を含め男子教育を目指したのです。

先生の目指した昭和三十年代の樹徳男子教育はジェントルマンの育成でありました。男子部創設当初の卒業生に聞くと、男子に対しては相当厳しい教育であつたと言います。

先生本人は、身長百七十五センチ、胸囲は一メートルを超える柔道マン、男子にとるとこわい校長であつたでしょう。この時にできたのが「六省」。現在でも帰りのホームルームで唱えられております。

至誠にもとるなかりしか
言行に恥づるなかりしか
氣力に欠くるなかりしか
努力にうらみなかりしか
不精にわたるなかりしか
慈愛にかくるなかりしか

善事千里を走る

目標を持つ

スポーツの世界で、常に自分の目標と向き合っていて、日々努力している者は多いが、普通に日常生活を送る中でも、目標を設定することは、とても大切である。

私は、小学校四年生から大学四年までの十二年間、バスケットボールを続けてきた。目標は「全国大会出場」。中学校では競技経験のある指導者はおらず、独学で考えたり、高校生の試合を見て学んだりした。朝から晩まで、ひたすら練習漬けの日もあった。しかし、「全国大会出場」の目標は達成出来ずに、中学校の三年間は終わった。このままでは終われない、という強い思いから、私は、本校の姉妹校でもある、埼玉県正智深谷高校に進学することを決めた。当時のメンバーは、日本代表候補がいたり、全国的にも名が知れ渡っている選手ばかりだった。両親からは「一生補欠でもいいのか」と言われたが、「全

国に行きたい」という目標を伝え、進学を許された。

入学後、私が考えていたよりも辛い日々が待っていた。早くAチームに上がれるように努力し続け、その目標は叶った。ここまではそれほど難しいことではなかったが、ここからが大変で、レギュラーとして試合に出場する機会は、全くなかった。目標に向かって頑張ってきたが、だんだんと気持ち薄れてしまい、なんとなく日々を送るようになっていった。ある時、学校の校則を破ってしまい、顧問の先生から叱られた。「両親に申し訳ないと思わないのか。何をしに学校に来たんだ」と言われ、心に響いた。ここで私は、気持ちが切り替わった。

それからの日々は、人の何倍も練習した。そしてついに、試合に出るチャンスももらい、そして結果を残すことができた。一年目の冬にはレギュラーの座を勝ち取ることができ、二年目の夏には、念願の全国大会

出場の切符を手にする事ができた。結果は二回戦で敗退となったが、その時、新たな目標が見えた。「全国制覇」という、チームとしての目標ができたのだ。それを目指して、チーム一丸となって練習し、三年目も全国大会に出場。そして、最後の全国大会では三位にまで上がることができた。

「全国制覇」という目標は達成できずに終わってしまったが、全国の舞台で試合に勝った時の喜びは、今でも忘れない。辛かったこと、苦しかったことの方が、多い日々だったが、努力し、仲間とともに諦めず頑張れたことは、私にとって一生の財産である。

目標を決めてから、それを達成するために努力することは、大変なことだ。また、人間は、無意識のうちになんか進んでしまうものだが、目標を決めておかなければ、何かしらのチャンスが訪れていることにすら、気づくこともできない。考えてみると、目標を決めていない状態というのは、とても勿体ない時間を過ごしていることになるのではないか。目標を達成した人の満足感、達成した人にかんじられない。私は、

目標を持つことがどんなに大切なのか、実体験を通して気づくことができた。ぜひ、生徒諸君にも、どんなことでもいい、目標を持って生活し、達成感を味わって欲しいと思っている。

(英語科 野平雄太)

年末年始の注意

「秋の夜長」を感じる間もなく、もう「師走」になってしまった気がします。「夜が長い」この季節、下校時間はもう真っ暗です。

ここで心配になるのが交通事故です。ただでさえ「師走」。みな家路を急ぎます。自転車通学の生徒はライトや反射灯、徒歩の者もカバ

ンに反射テープを貼るなど、自分を守る配慮をしましょう。また、暗闇や、人通りの無い道を、女の子が一人で帰るような場合、別の注意が必要です。該当する生徒や保護者の方々にぜひ、注意したいところです。

また、年末年始は誘惑の多い時です。交通事故同様、まずは本人の自覚ですが、周囲の指導や注意も必要です。「うちの子は今どこにいる?何をしている?」を常にはっきりさせておくのは親の義務です。つまらぬ誘いに乗らせることなく、のんびりと親子で過ごしましょう。

(生徒指導部)



桐生錦町一丁目

盛運橋薬局前

■樹徳コミュニティセンター「み法」12月の行事予定

- (1) ラタンアート工房「桐生籐工芸」
主催 野村ナナ子さん 7, 21日(木)
- (2) 七草ゼミナール塾
主催 上野文雄さん 21日(木)
- (3) 販売実習(3日 土曜日)
 - ①「相田みつを美術館」取扱い商品
 - ②「星野富弘美術館」取扱い商品
 - ③ 東北復興支援商品(海産物等)
- (4) 「五人囃子展」
主催 野村恵子さん 10日(日)



月影杯結果報告

平成二十九年十一月三日(金)・五日(日)にかけて本校が主催する月影杯中学生招待試合が執り行われました。本大会では卓球・柔道・剣道の三部門に分かれて各日とも熱戦が繰り広げられました。輝かしい成績を残した各部門の選手達をここに紹介します。

◆柔道

〔男子団体〕

- 優勝 足利協和中
- 準優勝 高崎大類
- 第三位 足利第一
- 第三位 桐生清流

〔女子個人〕

- 52kg以下級
- 優勝 長岡 采枝
- 準優勝 石川 星

- 第三位 亀井みず歩 (足利第二)
- 第三位 (伊勢崎宮郷)
- 第三位 半田 百花 (足利協和)
- 52kg級超級
- 優勝 相澤愛佳 (足利第二)
- 準優勝 後藤 唯 (足利第一)
- 第三位 權田 明亜 (足利第一)
- 第三位 林 唯菜 (足利協和)
- 第三位 (新治)

◆剣道

〔男子団体〕

- 優勝 太田西中
- 準優勝 足利北中
- 第三位 太田藪塚本町中
- 第三位 千代田中

〔女子団体〕

- 優勝 前橋東中
- 準優勝 太田藪塚本町中
- 第三位 前橋大胡中
- 第三位 前橋桂萱中



◆卓球

〔男子団体〕

- 優勝 栃木益子中
- 準優勝 足利毛野中
- 第三位 大間々東中
- 第三位 大間々東中

〔奨励賞〕

- 大久保 樹 (栃木益子中)

〔女子団体〕

- 優勝 栃木益子中
- 準優勝 大間々東中
- 第三位 伊勢崎宮郷中
- 第三位 伊勢崎あずま中

〔奨励賞〕

- 榎田 妃華李 (栃木益子中)
- (敬称略)



剣道 男子団体 準決勝の結果

学校名(赤)	スコア	学校名(白)
太田藪塚本町	2対3	太田西
千代田	1対3	足利北

剣道 男子団体 決勝の結果

学校名(赤)	スコア	学校名(白)
足利北	2対2(本)	太田西

剣道 女子団体 準決勝の結果

学校名(赤)	スコア	学校名(白)
前橋大胡	2対3	前橋東
太田藪塚本町	2対0	前橋桂萱

剣道 女子団体 決勝の結果

学校名(赤)	スコア	学校名(白)
太田藪塚本町	2対2(本)	前橋東

卓球 男子団体 準決勝の結果

学校名	スコア	学校名
大間々	0対3	栃木益子
足利毛野	3対1	大間々東

卓球 男子団体 決勝の結果

学校名	スコア	学校名
栃木益子	3対0	足利毛野

卓球 女子団体 準決勝の結果

学校名	スコア	学校名
伊勢崎宮郷	0対3	栃木益子
大間々東	3対0	伊勢崎あずま

卓球 女子団体 決勝の結果

学校名	スコア	学校名
栃木益子	3対2	大間々東



十月二十日(金)、力誉記念館講堂において、第三十一回合唱コンクールが行われました。

女子生徒の数々の活躍を伝えてきたこの伝統的行事に、今回から男子生徒の活躍が加わりました。共学化に伴い、コンクールは、一年生と一貫コース四年生による「混声合唱

部の部」と女子部二・三年生と一貫コース五・六年生女子による「女声合唱の部」の二部門で競われることとなったのです。

新たな形になった合唱コンクールですが、そこに向けた生徒たちの取り組みは、これまでと変わることなく、熱心そのもの。「樹徳の風物詩」そのままでした。朝・夕・休み時間を使い、数ヶ月にわたって練習に励み、学び舎全体に歌声が響きました。ただひとつ違っていたのは、今年その歌声に力強い男子の声加わっていたことでした。コンクール当日、ステージから届く美しいハーモニーの中には、それぞれの

クラスが指揮・伴奏・歌唱にどう取り組んできたか、その努力の過程が個性となって表現されました。今年もコンクールは熱戦となりました。

結果は次の通りです。

◇混声合唱の部
金賞 一貫コース
銀賞 一年J2組 四年二組
銅賞 一年K1・SS組

◇女声合唱の部
金賞 二・三年SS組
銀賞 一貫コース五年
銅賞 三年K組

◇審査員特別賞

正田梓紗(二年K組)

**大川美術館
織物参考館**
桐生の文化と
産業を学ぶ

一年生の秋の恒例行事である、大川美術館と織物参考館「紫」の見学が始まりました。二・三クラスずつが合同で見学します。桐生出身の実業家、故大川栄二氏の収集した近代洋画を中心に展示する大川美



術館は、日本の洋画史に異彩を放った松本峻介と野田英夫のコレクションが日本最大で、ピカソやミロの逸品なども見ることが出来ます。樹徳高校出身の学芸員さんのお話を伺った後、生徒たちは思い思いに作品を鑑賞。普段触れることのない絵画や彫刻に真剣に見入っていました。



織物参考館「紫」ゆかりは、桐生の織物産業の歴史を、織機の歴史を通して学べる施設です。のこぎり形の屋根は、採光を一定に保つため、北窓にしてあります。また天井をつけずに音を乱反射させ、織機による作業音がやわらぐよう工夫されています。



のこぎり屋根の「紫」



生徒は、古代から現代に至るまでの織機の進化に目を見張り、織物体験に苦心する中で、昔の女工さんたちの仕事の大変さを実感していました。

一貫校

中学校

だより

◆校内合唱コンクール

十月二十四日(火)、樹徳中学校講堂において校内合唱コンクールが行われました。

課題曲は、今年度のNHK全国学校音楽コンクールの課題曲でもある「願い事を持ち腐れ」。自由曲は各クラスの色を表すような曲が選曲され、個性あふれる仕上がりとなりました。何週間にもわたる日々の練習の成果を、保護者の方々にも見て頂くことができました。一年生は初々しく、二年生は元気が良く、三年生は中学の集大成に相応しい立派な合唱で、各学年クラスがそれぞれの持ち味を生かした素晴らしいものとなりました。

後半の部は5年生の男女別の合唱や音楽部による合唱が行われました。生徒たちはその歌声に魅了されました。

また、金賞を取った三年一組の自由曲「明日へ続く道」は十一月十日、シルク

ホールで行われた桐生市中学校音楽学習発表会の折に、三年生全体の合唱曲とともに披露されました。



～結果～

金賞 3年1組
 銀賞 3年2組
 銅賞 2年1組
 最優秀指揮者賞 2年2組 日野 朱莉
 最優秀伴奏者賞 3年2組 新井 詩織

◆早朝道路清掃

十一月六日(月)から二十一日(火)までおよそ二週間、各学年クラスが日替わりで、樹徳中学校前の新川公園で早朝道路清掃を実施しました。朝のホームルーム前の二十分ほどですが、寒い中落ち葉が溜まった新川公園を、生徒たちは元気に落ち葉を掃いたりゴミを拾ったりしていました。掃除後、生徒たちはすっかりきれいになった公園を見てすっきりとした充実した表情をしていました。



◆父の日作文 最優秀賞受賞

第六十回群馬県父の日大会作文において、樹徳中学一年、久保田りかさんが最優秀賞を受賞しました。家族のために働く父親の一大決心などが、娘の目から鮮やかに描かれていました。

◆音楽部慰問演奏

十一月三日(金)樹徳中学校音楽部は両毛整肢療養園にて園の方々に合唱や合奏を披露しました。曲によっては園の方々も一緒に歌ってください、大変盛り上がりました。最後は楽器紹介で、ほんの一部ですがソロで演奏し、それぞれの楽器の音色を知っていただきました。その後、園の方々から花束をいただき、「また、時期を変えて来てほしい」と言っていたとき、生徒にとっても園の方々にとっても、とても気持ちの良い演奏会になりました。次回はもっと上手になつて、また楽しい演奏を披露したいと部員たちは考えています。



◆樹徳中学校第2期入学試験 平成29年12月9日(土)

出願期間 平成29年11月27日～12月5日
土日を除く

◆樹徳中学校第3期入学試験 平成29年2月10日(土)

出願期間 平成30年2月7日～2月9日

お問い合わせ TEL 0277-45-2257

幼稚園だより

「園での暮らしと生活から」

や暮らしは、幼児期における最も大切な経験となります。

持って、共生できる人となり、遊び楽しみ、豊かに人生を生きるすべの「根」を、幼児期に保障するための場や、時間と営みを園生活の中で保障していくことが、とても大切になります。先生（保育者）・保護者とともに、制度的な差異をを超えて、「夢は大きく根は深く」樹徳の理念を共有して、子どもたちの教育に努めていきましょう。

「発表会に向けて」

十二月十六日（土）に

「なかよし発表会」を開催します。今年度は初めて樹徳高校勢至ホールに場所を変更して実施いたします。

—主な内容—

○年長（たけ組）

・オペレッタ「ブレーメンの音楽隊」・歌「にじ」・合奏「カレンダーマーチ」・ピアノカ「ふるさと」

○年中（さくら組）

・劇「にじいろのさかな」・歌「きみのこえ」・合奏「あかはなのトナカイ」・ピアノカ「ひげじいさん」

○年少（もも組）

・劇「おかあさんのたん

じょうび」・合奏「あわてんぼうのサンタクロース」・歌「やくそくハイ！」

○年少々（すみれ組）

・劇「おべんとうバス」・歌「てをたたきましよ」・リトミック「むすんでひらいて」

発表会に向けて、子どもたちは元気いっぱい劇遊び・歌・楽器遊びなどの練習に取り組んでおります。発表会当日は、一生懸命頑張っている子どもたちの姿を見守り、応援してください。多くの関係皆様のご来場をお待ちしております。

「悔いることは改めることの始まり」

後日過ぎし月日のしのばれて

殊更しき、

年の暮れかな

いよいよ今年も師走を迎えましたが、過ぎ去ったこの一年に、何をすることができたかと、振り返ってみると、昨年と同じく、やはり後悔すべきことが多くあります。しかし、悔いることは改めることのはじめとして、来年の暮れには、同じ後悔をすることがないように、新しい年を迎えるに当たっては、新たな勇気と決心を持たなければと思っています。

園長 瀬谷 茂

『入園願書受付』

●幼児教育は、歴史と伝統のある樹徳幼稚園で！未来に生きる力の基礎を育みます。
●三年度認定子ども園へ移行予定！二歳から入園できます。

○募集人員

・二歳児 一〇〇名
・満三才児 一〇〇名
・三歳児 三〇〇名
・四・五歳児各 若干名

※入園願書は直接ご来園くださるか、お電話にて問い合わせください。

問い合わせは樹徳幼稚園まで。

〇二七七一五二一五五七一

http://www.jufoku.ed.jp/kinder



「焼き芋会」（早く食べたいな！）



「チューリップの球根植え」（吾妻公園）

12月(布施)の行事予定

日	曜日	高等学校(本校)	一貫校	幼稚園
1	金	暖房使用開始 3年SSKs組三者面談(～2日) 年生修学旅行帰桐	2 頭髪服装指導 5年生修学旅行帰桐	幼交連交通安全教室
2	土	3年駿台センタープレテスト(～3日) GTEC for STUDENTS (1,2年進学クラス)		
3	日			
4	月	LHR(人権教育)	中学校期末試験(～6日) 三者面談・高校3時限授業(～7日)	リズム(全)
5	火	授業料納入日 県校長会		保育料納入日 成道会・数珠くり(大善寺)
6	水	献血① マイトリー基金拠金日		
7	木			入園面接(10:30～)
8	金	献血② 成道会 後援会役員会③	保護者による生き方教室	
9	土		第二期入学試験	
10	日			
11	月	朝礼	中3海外語学研修事後オリエンテーション	リズム(全)
12	火			読み聞かせ(西山先生)
13	水			
14	木	担任宛成績提出 法人役員会②		法人役員会
15	金	校内マラソン大会	校内マラソン大会	なかよし発表会予行練習(樹徳高校 勢至ホール)
16	土			なかよし発表会(樹徳高校 勢至ホール)
17	日			
18	月	LHR 推薦・学奨入試願書受付(～19日)	ミニマナーアップ運動	なかよし発表会代休日・預かり保育
19	火	教務宛成績提出		
20	水	2学期出欠締切 制服アフターサービス		
21	木	学年別一斉指導 成績会議		
22	金	終業式 大掃除 奨学生審査会②	終業式・大掃除	終業式 餅つき大会
23	土	天皇誕生日	天皇誕生日 音楽部定期演奏会	天皇誕生日
24	日		WSL(～25日)	
25	月	入試準備事務① 冬期特別課外授業開始	実力養成特別補習(～26日)	預かり保育① 冬休み(～1月8日) 群私幼研究委員研修会
26	火	入試準備事務②		預かり保育② 研究委員研修会
27	水	入試準備事務③		預かり保育③
28	木	振替休日(1月6日)	振替休日(1月6日)	預かり保育④ 仕事納め
29	金	職員休暇	職員休暇	年度末特別休暇(～31日)
30	土	職員休暇	職員休暇	
31	日	職員休暇	職員休暇	

※ 1日は高等学校・一貫校・幼稚園の校内安全点検日です。



樹徳高等学校
樹徳中学校
樹徳幼稚園

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目1番20号
TEL 0277-45-2258 FAX 0277-47-1671

〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町4-12
TEL 0277-45-2257 FAX 0277-45-2262

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目4475
TEL 0277-53-5571 FAX 0277-53-5572

Web www.jutoku.ed.jp Mail office@po.jutoku.ed.jp

発行責任者 野口秀樹
印刷所 太陽印刷工業株

夢は大きく 根はふかく